

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット認証申請書

令和3年10月27日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

Jブルークレジット制度実施要領の規定に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

(第1号様式)

プロジェクト番号	■新規申請 □登録番号 ()
プロジェクトの名称	兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり
プロジェクト実施者・場所	【実施者】 同上 【場所】 兵庫県兵庫区材木町4丁目 兵庫運河(あつまれ生き物の浜、きらきらビーチ)
プロジェクト概要	<p>兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり 兵庫県神戸市兵庫区に位置する兵庫運河について、水質浄化や藻場の造成、周辺環境美化活動について取り組んでいる。貯木場跡地付近にて、近畿地方整備局・神戸市のそれぞれで造成された2つの干潟での活動について、今回申請を行う。</p> <p>あつまれ生き物の浜 近畿地方整備局神戸港湾事務所が令和2年9月に造成した「兵庫運河港湾発生材活用・干潟実用試験場(愛称:あつまれ生き物の浜)」は、港湾構造物の撤去材を活用して造成されたもので、海藻や海生生物の生息場創出に関する実証実験を目的としている。 令和2年11月、造成された当該干潟は、兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、兵庫・水辺ネットワーク、神戸市立浜山小学校の共同事業である兵庫運河の自然を再生するプロジェクトの実施場所として、生息生物のモニタリング、環境学習での活用、その活用を通じた干潟及びその周辺の生物生態系の見守り活動を行っている。</p> <p>きらきらビーチ 神戸市港湾局が平成27年に材木橋東砂浜(愛称:きらきらビーチ)を造成した。 きらきらビーチの付近にてアマモ場の再生を目的に、平成27年7月より、兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、兵庫・水辺ネットワーク、神戸市立さかなの学校、神戸市立栽培漁業センターにより、舞子漁港内のアマモ場より採取したアマモの移植実験を行っており、令和元年までの5年間、毎年移植を行った。 アマモの繁茂状況や生息生物のモニタリングを引き続き実施しており、平成29年にはアマモの花穂を確認している。</p> <p>【実施体制】</p> <ul style="list-style-type: none">・兵庫漁業協同組合: アマモ移植、モニタリング、清掃活動・兵庫運河を美しくする会: アマモ移植、清掃活動、広報活動・神戸市立浜山小学校: アマモの育成、環境学習、生き物調査・兵庫・水辺ネットワーク: アマモ移植、モニタリング、清掃活動 <p>【使用船舶等】 船外機船(1.77トン70PS)延2隻(延運転時間約5時間、航行距離約2km)</p>
プロジェクト実施期間	平成27年7月～現在
クレジットの認証申請対象期間	令和2年9月20日～令和3年9月19日

(第1号様式)

方法論	①活動量算定方法※	<p>【対象とする生態系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アオサ、ジュズモ ・アマモ ・干潟 <p>【算定方法】 ※別添1のとおり</p>
	②吸収係数	<p>1.アオサ・ジュズモ Sfriso et al. (1993), Yoshida et al. (2015), 吉田ほか(2010)、吉田ら(2011), Chen et al. (2020)などから算定されるアオサの吸収係数の内、現存量が多い場合の吸収係数(0.7128 t-CO₂/ha/年)を準用する。</p> <p>2.アマモ 桑江ら(2019)の表-4に記載されているアマモ場の吸収係数(4.9t-CO₂/ha/年)を用いた。</p> <p>3.干潟 桑江ら(2019)の表-4に記載されている干潟の吸収係数(2.6t-CO₂/ha/年)を用いた。</p> <p>Sfriso et al. (1993) Species composition, biomass, and net primary production in shallow coastal waters: The Venice lagoon Bioresource technology Volume 44, Issue 3 Pages 235-249</p> <p>Yoshida et al. (2015) persistent occurrence of floating Ulva green tide in Hiroshima Bay, Japan: seasonal succession and growth patterns of Ulva ertusa and Ulva spp. Hydrobiologia758: 223-233.</p> <p>吉田ほか(2010) 広島湾奥部の海底におけるアオサ等海藻類の堆積状況(予報). 生物圏科学 49. 31-38.</p> <p>吉田ら(2011) 海藻類の一次生産と栄養塩の関係に関する研究レビュー-および瀬戸内海藻場の栄養塩環境の相対評価-. 水研センター研報 34: 1-31.</p> <p>Chen et al. (2020) DOC dynamics and bacterial community succession during long-term degradation of Ulva prolifera and their implications for the legacy effect of green tides on refractory DOC pool in seawater. Water Research 185, 116268</p> <p>桑江ら(2019.6): 浅海生態系における年間二酸化炭素吸収量の全国推計. 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 75: 10-20</p>
	③吸収量算定方法	<p>【算定した式】 活動量 × 吸収係数</p> <p>【算定結果(吸収量)】</p> <p>1. アオサ、ジュズモ 0.38ha × 0.7t-CO₂/ha/年 = 0.2t-CO₂</p> <p>2. アマモ 0.20ha × 4.9t-CO₂/ha/年 = 0.9t-CO₂</p> <p>3. 干潟 0.33ha × 2.6t-CO₂/ha/年 = 0.8t-CO₂</p>

(第1号様式)

ベースラインの設定方法・妥当性とその量	「あつまれ生き物の浜」「きらきらビーチ」とも兵庫運河に造成された人工干潟であり、造成前に同水域ではアマモの自生は確認されていなかったことから、ベースラインをゼロとした。 1. アオサ、ジュズモ：0 t-CO ₂ 2. アマモ：0 t-CO ₂ 3. 干潟：0 t-CO ₂
クレジット認証対象の吸収量	1. アオサ、ジュズモ：0.2 t-CO ₂ 2. アマモ：0.9 t-CO ₂ 3. 干潟：0.8 t-CO ₂